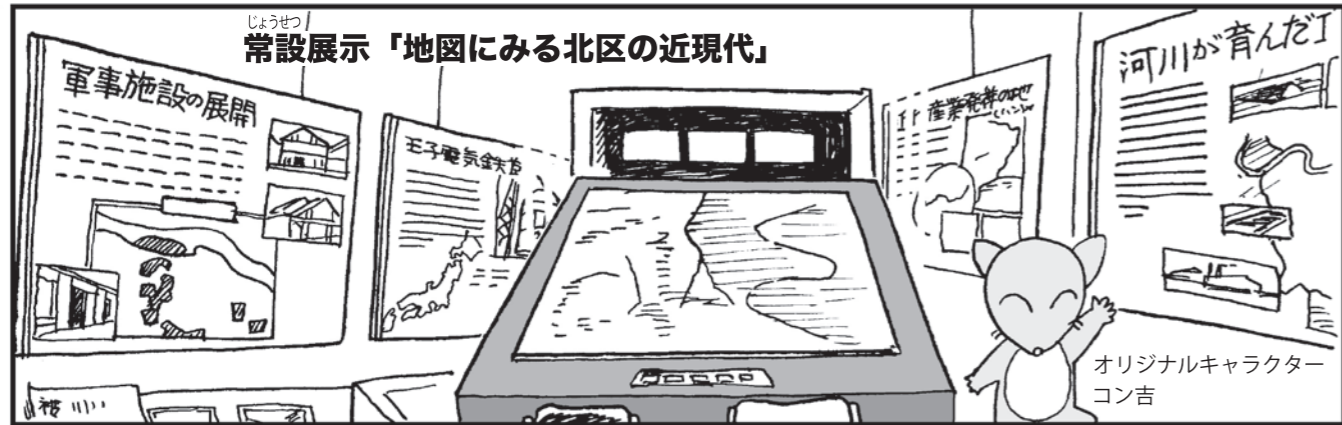


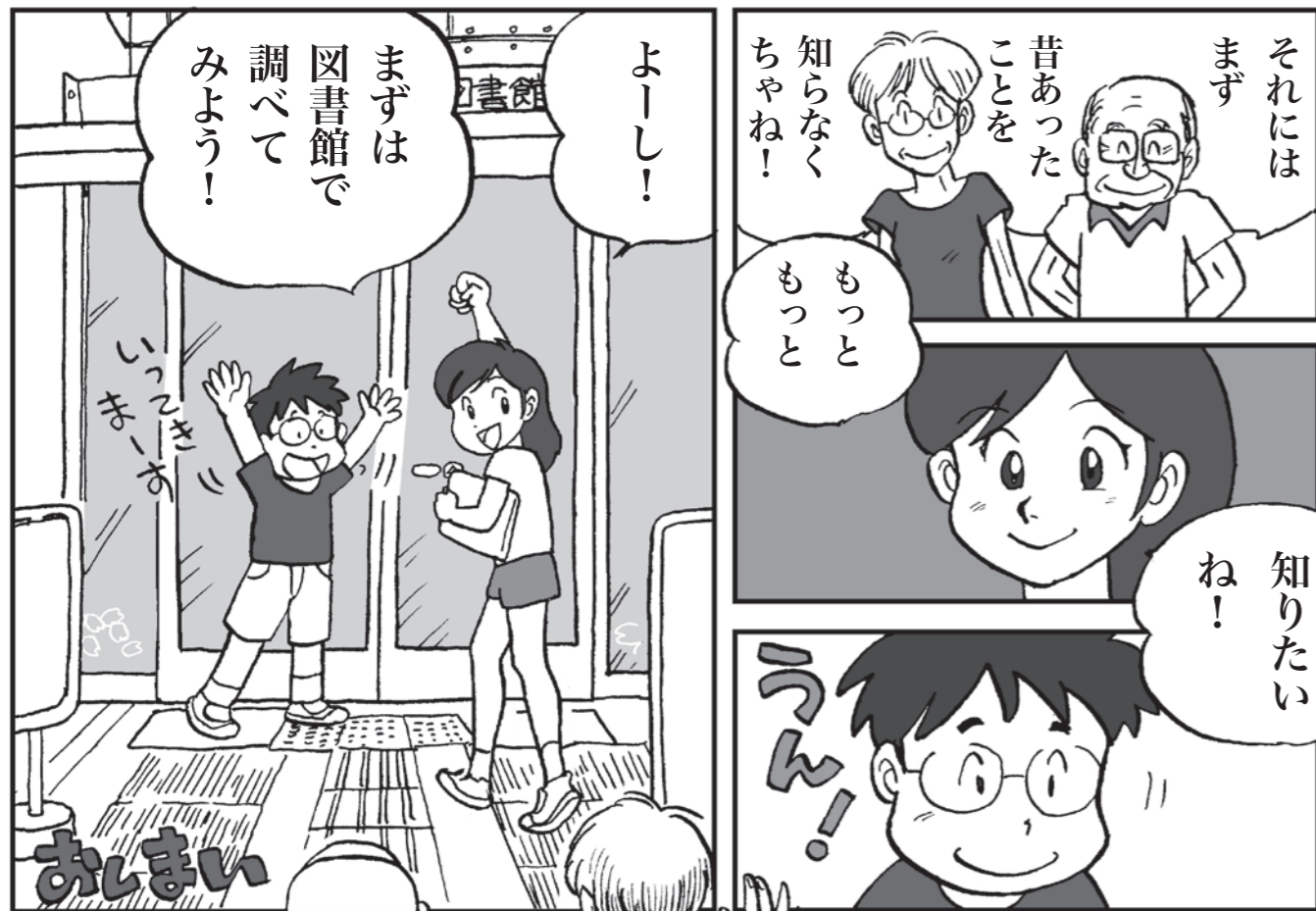
飛鳥山
博物館にも
展示がある
わね



常設展示「地図にみる北区の近現代」

オリジナルキャラクター
コン吉

8月15日— 80年前のこの日、終戦。この平和が続きますように。



まずは
図書館で
調べて
みよう!

よーし!

それには
まず
昔あった
ことを
知らなく
ちやね!

もっと
もっと

知りたい
ね!

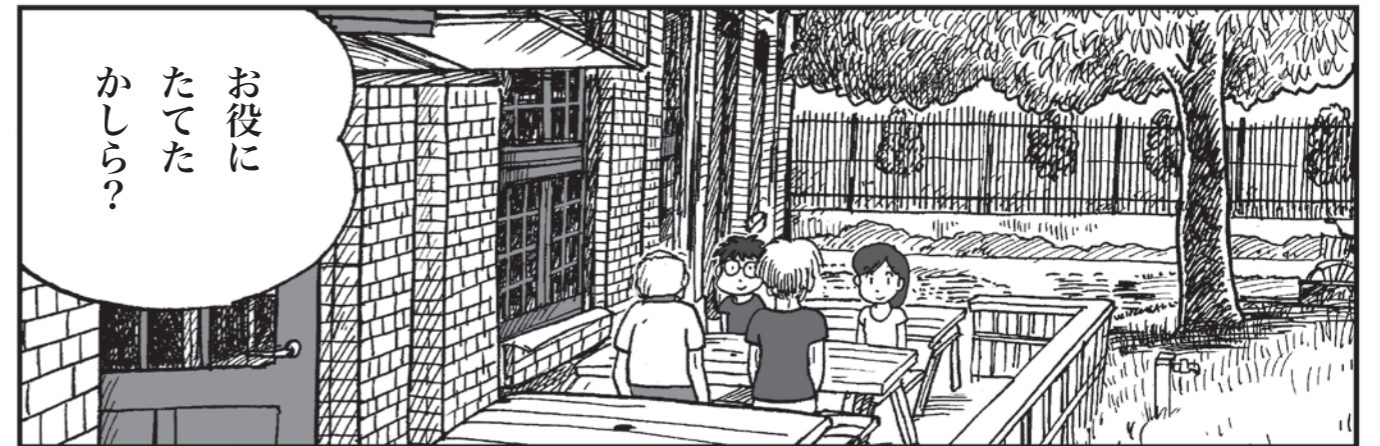
うん!

おしまい

いって
らっしゃい

平和な未来へむかって

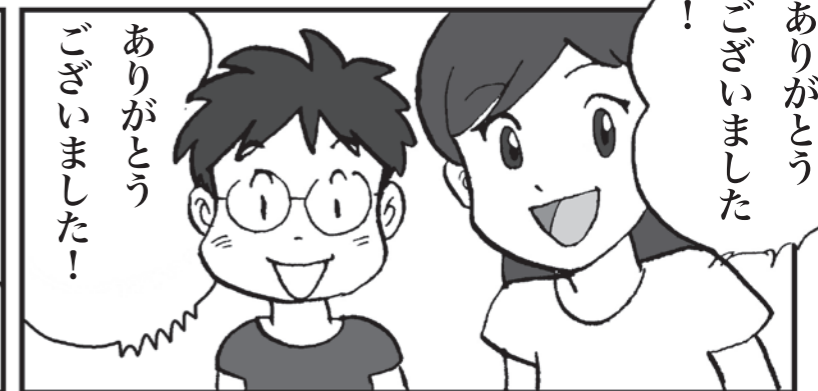
まんがでたどる北区と戦争 エピローグ



お役に
たてた
かしら?

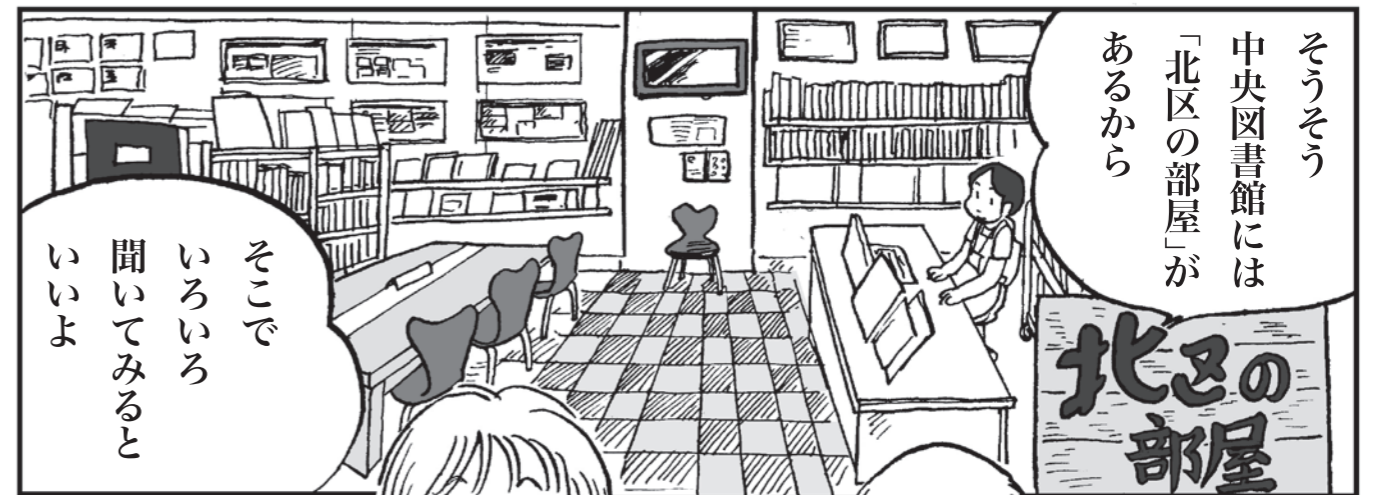


どう
いたしまして



ありがとう
ございました!

ありがとう
ございました!



そうそう
中央図書館には
「北区の部屋」が
あるから

北区の
部屋

そこで
いろいろ
聞いてみると
いいよ



キーンさんの
お部屋も
あるわよ

鬼野
ドナルド・
キーン

和暦	年	西暦	北区	日本と世界の動き
明治	5	1872	赤羽の台地上に陸軍の火薬庫が設置される	
	10	1877	滝野川村（現在の滝野川1〜7丁目あたり）で火薬工場の建設が始まる	
	20	1887	近衛工兵隊・第一師団工兵第一大隊が大手町から赤羽台に移転する	
	24	1891	赤羽台に軍服などを扱う被服廠の倉庫が完成する	
	27	1894	西ヶ原に海軍の下瀬火薬製造所が建てられる（1931年京都府舞鶴市へ移転）	
	32	1899	王子の火薬製造所が豊島に六万坪の用地を取得し拡張する（貯弾場）	
	37	1904	東京砲兵工廠銃包製造所（弾丸を作る工場）が十条台（現在の北区中央公園、十条駐屯地付近）に移転する	
	38	1905	板橋火薬製造所が稲付に射撃場を設置する	
大正	3	1914	本所区（墨田区）にあった陸軍被服本廠が赤羽に移転する	第一次世界大戦が始まり、日本も参戦する（1918年11月終結）
	8	1919		国民の行動を制限する治安維持法が定められる
昭和	6	1931	王子区・滝野川区ができる	中国の柳条湖近くで「南満州鉄道」が爆破される《満州事変》
	7	1932	王子区防護団（防災活動を行う団体）の発団式が行われる	海軍将校たちが首相官邸を襲って大餉毅首相を暗殺する《五・一五事件》
	8	1933	飛行機「王子機」の命名式が北町（神谷3丁目）広場で行われる	日本が国際連盟を脱退する
	10	1935	赤羽の工兵第一大隊が「満州」へ出征、周辺町会らが部隊を見送る	陸軍の青年将校たちが部下を率いて反乱を起こす《二・二六事件》
	11	1936	家庭防火群（防空防火対策を行う団体）結成、焼夷弾の実験が荒川放水路で行われる	中国の盧溝橋で日本と中国の軍隊が戦う《日中戦争開始》
	12	1937	灯火管制、戦争の支援のための廃品回収や出征家族の自宅訪問が行われる	国家総動員法が公布され、戦争を支えるために国中の人々や物を使うことができるようになる
	13	1938	防護団が解散し、警防団が新たに組織される	ドイツがポーランドへ進行を開始する《第二次世界大戦開始》
	14	1939		砂糖・マッチの配給制度が開始、やがて食品や日用品も対象になる
	15	1940		9月 日本、ドイツ、イタリアの間で日独伊三国同盟が結ばれる
	16	1941	東京市が北谷端公園用地・志茂町公園用地を防空用地として買収する	4月 尋常小学校が国民学校に改められる

日本と世界の動き

和暦	年	西暦	北区	日本と世界の動き
昭和	16	1941	王子公園に高射砲陣地（飛行機を打ち落とす大砲）がつくられる	12月 日本がハワイの真珠湾を空襲、アメリカ・イギリスなどに宣戦布告する《太平洋戦争開始》
	17	1942	王子区役所で陸軍女子挺身隊（工場などで働く未婚女性の組織）の結成式が行われる	4月 東京に初の空襲が行われる
	18	1943	王子・滝野川両区で防衛課・戦時生活課等が設置され、戦争への備えが強化される	6月 ミッドウェー海戦で日本が大敗する
	19	1944	区内各所に防空壕や防火用貯水池が建設される	7月 東京府・市を廃止して東京都となる
	20	1945	東京都が防空用地として王子公園を買収する	8月 空襲に備えて上野動物園のソウヤライオンなどの猛獣の殺処分が始まる
	20	1945	区内の各国民学校が地方への学童集団疎開を実施する	9月 イタリアが無条件降伏する
	20	1945	12月3日 北区で初めて本格的な空襲による被害が出る	10月 神風特別攻撃隊が飛行機での体当たり攻撃を開始する
	20	1945	飛鳥山公園に空襲避難用横穴式防空壕が掘られる	12月 建物の強制疎開が始まる
	20	1945	2月19日 東京の空襲が激しくなり、豊島地域を中心に大きな被害が出る	3月9〜10日 アメリカ軍による東京大空襲、下町を中心に壊滅的な被害が生じる
	20	1945	4月13〜14日 空襲で王子・滝野川両区で大きな被害が出る《城北空襲》	4月 アメリカ軍が沖縄本土に上陸する
	20	1945	8月10日 空襲により、十条・稲付・袋町を中心に大きな被害が出る	5月 ドイツが無条件降伏する
	20	1945	戦死者の遺体を神谷公園に仮埋葬する（1949年、東京都慰霊堂へ改めて埋葬）	8月6日 広島に原子爆弾が投下される
	20	1945	疎開していた学童が北区に戻る	8月9日 長崎に原子爆弾が投下される
	21	1946	赤羽復興会商店街商業協同組合（赤羽一番街商店街）が結成される	8月15日 アメリカ・イギリス・ソ連が降伏をよびかけたポツダム宣言を日本が受け入れる《第二次世界大戦終結》
昭和	20	1945	近衛工兵隊跡地に国立王子病院（現在の東京北医療センター）が開設される	GHQ（※アメリカを中心にした国々が、日本をどのように復興させるかを決めるために作られた組織）の指示により、戦争にかかわる様々なことが廃止され、民主化が進められる
	22	1947	3月15日 王子区・滝野川区が合併し、北区が成立する	10月 国際連合ができる
	22	1947	学校給食用として連合軍の放出物資が配給される	5月 戦争を進めた日本の指導者たちの裁判が開始される
	22	1947		11月 日本国憲法が公布される（翌年5月施行）
	22	1947		旧町内会・隣組の廃止が決定される
	22	1947		小学校6年、中学校3年の義務教育が始まる

日本と世界の動き



北区にあった軍の施設

地図の番号1から15まで、北区には軍の施設が多数ありました。表にある施設の名前は、終戦時の名前で、つくられた当時は別の名前だった施設もあります。

最初にできた軍事施設は、15東京第二陸軍造兵廠板橋工場と6陸軍兵器補給廠赤羽火薬庫で、明治5年（1872）から土地の準備がはじまりました。15は兵器に必要な火薬をつくる工場で、6はつくられた火薬を保管する倉庫でした。

地図をみると、北区の中あたりの10〜15は、兵器を作る施設が集まっています。10東京第一陸軍造兵廠十条工場は、鉄砲や大砲の弾をつくる工場でした。いまの中央図書館は10のなかの工場だった建物のひとつです。北の方の6〜9は、倉庫が集まっています。7陸軍被服本廠は、軍服やくつをつくったり保管して全国の兵士へ発送しました。8陸軍兵器補給廠は、10でつくられた兵器の倉庫でした。これらの施設は、軍専用の貨物線で結ばれ、汽車で物を発送していました。さらに北の1〜5は1第一師団工兵第一大隊と3近衛工兵第一連隊という二つの工兵隊が使用していました。工兵隊とは、戦いのために必要な陣地をつくったり道や橋をつくる部隊です。



番号	旧軍施設
1	第一師団工兵第一大隊
2	工兵隊練兵場
3	近衛工兵第一連隊
4	赤羽射撃場
5	工兵隊作業場
6	陸軍兵器補給廠赤羽火薬庫
7	陸軍被服本廠
8	陸軍兵器補給廠
9	稲付射場
10	東京第一陸軍造兵廠十条工場
11	東京第二陸軍造兵廠王子工場
12	東京第二陸軍造兵廠船倉庫
13	東京第一陸軍造兵廠池野川工場
14	東京第一陸軍造兵廠尾久工場
15	東京第二陸軍造兵廠板橋工場

終戦時の旧軍用地（『北区史』通史編近代より転載）

令和	平成	昭和	和暦	西暦	北 区	日本と世界の動き																				
8	6	3	20	11	2	61	56	49	47	46	43	41	40	39	38	37	35	33	31	30	27	26	23	年		
2026	2024	2021	2008	1999	1990	1986	1981	1974	1972	1971	1968	1966	1965	1964	1963	1962	1960	1958	1956	1955	1952	1951	1948	西暦		
3月 北区平和都市宣言40周年、戦後80年誌を発刊する	平和の女神像創建50周年記念式典を開催する	旧東京第一陸軍造兵廠の工場（275号棟）が北区立中央図書館の一部として保存・活用される ※（ ）内の号棟番号は戦後に使われた通称	赤羽自然観察公園内に平和の森を建設する	北とびあ開館、正面玄関前に平和祈念像を建てる	北区平和都市宣言	飛鳥山公園に平和の女神像を建てる	キャンパ王子跡地に中央公園文化センターが建設される	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる	王子野戦病院の開所式が行われる

平和祈念像に込めた

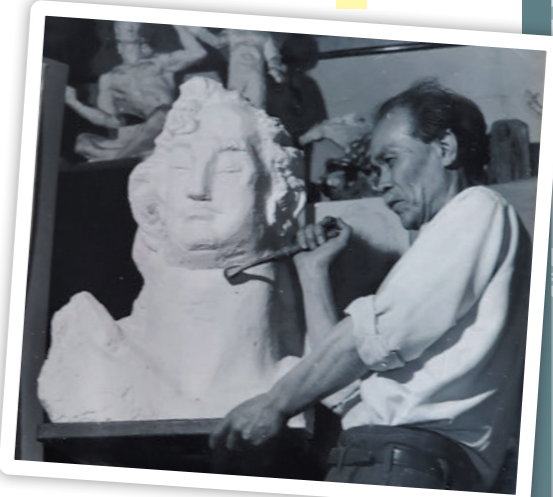
北村西望さんの想いととは!?

日本を代表する彫刻家・北村西望さんは、平和をテーマにした作品を多く残したことも知られています。西望さんは大正5年（1916）から37年間、北区の上中里や西ヶ原のアトリエを拠点に活動していました。

昭和25年（1950）には、長崎市から「原爆犠牲者の冥福を祈る記念碑」の制作依頼が届きます。構想のなかで西望さんは、人類が平和を実現できない現状に目を向けました。平和の実現には、人種・国籍・宗教を超えた特別な存在が必要だと考え、その



北村西望作「北とびあ前の平和祈念像」この大きさの原型までは西ヶ原のアトリエで制作された。



「制作中の北村西望さん」昭和56年（1981）には北区初の名誉区民に選出された。

姿を平和祈念像で表すことにしました。

制作する長崎の平和祈念像は、高さ9メートルにおよび、当時の西ヶ原のアトリエには入りきらないほど巨大なものでした。それでも西望さんは、大きさを妥協することなく、井の頭公園内に新しいアトリエを建て、生活の場を移してまで制作を続けました。一度見たら誰もが記憶にとどめ、平和の大切さを忘れないでほしいという想いで、西望さんはこの巨大な平和像を完成させたのです。

平和祈念像という名前にも、西望さんの想いが込められています。世界には、まだ



北村西望作「平和の女神像」昭和49年（1974）に平和をテーマにした像が飛鳥山公園内に設置された。

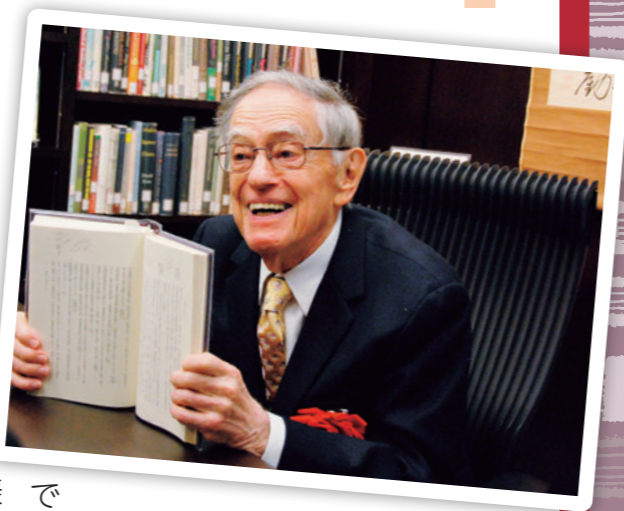
真の平和が訪れていないからこそ、記録としての「記念」ではなく、祈り続ける「祈念」という字を選び、この名を付けたのです。そして、平和への想いは像のポーズや表情でも表現されています。天に向かって指をさす右手は「原爆の恐ろしさ」を、水平に伸ばした左手は「平和」を、そっと閉じたまぶたは「原爆犠牲者の冥福を祈念する姿」を表しているのです。

ドナルド・キーンさんを 知っていますか?!

ドナルド・キーンさんは、アメリカ生まれの日本研究者です。日本をこよなく愛し、89歳で日本国籍を取得して日本人となり、平成31年（2019）2月に96歳で亡くなるまで45年間も北区西ヶ原で暮らしま

した。キーンさんは、戦争嫌いの平和主義者でした。子どものころは、百科事典の「戦争（War）」のページを開くことすら怖かったほどです。でも太平洋戦争では、アメリカ海軍に入隊します。その理由は、18歳のときに出会った日本の古典文学にありま

す。当時、キーンさんは日本を恐ろしい軍事国家だと思ひ込んでいました。けれども、英語で読んだ『源氏物語』に書かれていたのは戦いや暴力



平成25年（2013）1月24日 北区立中央図書館ドナルド・キーンコレクションコーナー開設記念式典にて。

和な世界でした。『源氏物語』の世界に心を奪われたキーンさんは、日本文化への関心を深め、日本語を学びたいという強い気持ちを抱くようになったのです。

こうしてキーンさんは海軍日本語学校に入学し、たった11か月で日本語の読み書きを習得することになります。語学将校として日本兵の日記を読んだとき、キーンさんは、死を覚悟した兵士の人間らしい心につれ、深く感動しました。そして、捕虜の日本人兵士にも公平に優しく接しました。たとえば、ある捕虜が「クラシック音楽が聴



昭和18年（1943）8月 エイダック島にて（ドナルド・キーン記念財団提供）アッツ島攻撃後に上陸したエイダック島で、ドナルド・キーンさん（後列左）とオーティス・ケリーさん（後列右）右手に銃、左脇に辞書を抱えている。

けなくて寂しい」というのを聞き、その兵士たちのために、こっそりレコード演奏会を開きました。キーンさんは敵であっても、人間として相手を尊重したのです。

戦争が終わった後、キーンさんはさらに日本研究を深めます。日本文学の翻訳のほか英語で著作を執筆して世界中の人々に日本の魅力を伝えました。日本の作家とも交流し、異なる文化を持つ人々の間に橋をかけました。違う国や違う文化を持つ人同士でも、お互いに理解し合うことで世界に平和が広がる——そのことを、私たちに教えてくれたのです。



本誌の発行に際し、多くの皆様にご協力をいただきました。

【協力者一覧】(五十音順 敬称略)

(個人) 石川令子 大岡永助 越澤 明 杉山英一 (戦後 80 年誌編集会議) 有馬純雄 (北区史を考える会会長)
久保埜企美子 (北区飛鳥山博物館学芸員)
黒川徳男 (北区立中央図書館地域資料アドバイザー)
田中葉子 (北区飛鳥山博物館学芸員)

(機関・団体) アメリカ国立公文書館

一般財団法人ドナルド・キーン記念財団

王子神社

(漫画) さかいひろこ

香取神社

上田端八幡神社

中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」

公益財団法人北区文化振興財団

北区飛鳥山博物館

北区立中央図書館「北区の部屋」

主な参考文献

板橋区立郷土資料館編 (2025)『戦後 80 年 区民が生きた戦争の時代』板橋区立郷土資料館
一條三子 (2017)『学童集団疎開 受入れ地域から考える』岩波書店
岩脇彰編 (2013)『平和を考える 戦争遺物 1 子どもたちと戦争』汐文社
NHK スペシャル取材班ほか (2012)『東京大空襲 未公開写真は語る』新潮社
NHK スペシャル取材班 (2018)『本土空襲全記録』KADOKAWA
北区飛鳥山博物館編 (2016)『北区飛鳥山博物館研究報告』第 18 号 東京都北区教育委員会
北区飛鳥山博物館事業係編 (2017)『文化財研究紀要別冊第二十六集 北区における戦中・戦後の暮らしの変遷』北区教育委員会
北区教育史編集調査会編 (1993-1995)『北区教育史』通史・資料編 東京都北区教育委員会
北区史区議会史編集室編 (1971)『新修北区史』東京都北区
北区史編集調査会編 (1992-1996)『北区史』東京都北区
北区総務部女性政策課編 (1997)『戦時下にくらした女性たち—もうひとつの北区史 2』東京都北区
北区総務部総務課編 (1988)『真赤な空は忘れられない』東京都北区
北区総務部総務課編 (2006)『戦後 60 年 写真で語り継ぐ平和の願い』東京都北区
北区総務部総務課編 (2016)『北区戦後 70 年誌 記憶が紡ぐ平和への願い』東京都北区
北区総務部男女共同参画室編 (1999)『翔ばたく女性たち—もうひとつの北区史 3』東京都北区
北区立中央図書館編 (2009)『区民とともに歩む図書館をめざして 北区立中央図書館(赤レンガ図書館)』東京都北区
北区立中央図書館編 (2018)『TOKYO 北区の KITA みち〜目で見ると見る北区の歴史〜』東京都北区
北区立中央図書館編 (2019)『History of The Red brick building 赤レンガ棟の歴史と見どころ〜軍事施設から中央図書館へ〜』北区立中央図書館
北区立神谷小学校創立五十周年事業実行委員会編 (2005)『創立五十周年記念誌 神谷小学校』北区立神谷小学校
北区立滝野川第三小学校創立六十周年記念誌編集委員会編 (1976)『創立六十周年記念誌』北区立滝野川第三小学校
北区立滝野川第三小学校創立七十周年記念誌編集委員会編 (1987)『創立七十周年記念誌』北区立滝野川第三小学校
北区立堀船小学校五十周年記念誌委員会編 (1972)『創立五十周年記念誌』北区立堀船小学校
桐ヶ丘三十五年史編集委員会編 (1981)『桐ヶ丘三十五年史』北郊文化
北村西望 (1983)『百歳のかたむり』日本経済新聞社
北村西望 (1984)『北村西望』日本経済新聞社編『私の履歴書 文化人 9』日本経済新聞社
桐ヶ丘三十五年史編集委員会編 (1981)『桐ヶ丘三十五年史』北郊文化
栗原俊雄 (2022)『東京大空襲の戦後史』岩波書店
群馬県 (1963)『群馬県市町村合併史』群馬県総務部地方課
小山仁示訳 (1995)『日本空襲の全容 米軍資料マリアナ基地 B29 部隊』東方出版
早乙女勝元監修 (2001)『目でみる 戦争とくらし百科』1〜5 日本図書センター
昭和館学芸部監修 (2016)『写真でみる太平洋戦争とくらし・道具事典 人びとのくらし・道具』金の星社
戦争とくらしの事典編集室編 (2008)『戦争とくらしの事典』ポプラ社
高橋光子 (2018)『ぼくは風船爆弾』潮出版社
田代備ほか編 (2007)『語りつぎお話絵本 せんそうってなんだっの?④学校』学習研究社
東京都神谷国民学校昭和 20 年度卒業生編著 (1991)『学童疎開追想』柏十会
砥上峰次 (1944)『紙芝居講演講座』慶文堂書店
西垣晴次ほか編 (1997)『群馬県の歴史』山川出版社
庭田杏珠ほか (2020)『AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』光文社
半藤一利 (2023)『半藤先生の「昭和史」で学ぶ非戦と平和 戦争の時代 1926〜1945』上・下 平凡社
福島のリよ (2017)『風船爆弾』富士房インターナショナル
ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館編 (2007)『第 22 回特別展図録 東京第一陸軍造兵廠の軌跡〜埼玉と東京を中心に〜』ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館
阪阪正康監修ほか (2015)『写真で見ると見る太平洋戦争』II・III 山川出版社
ホビージャパン (2012)『帝国陸海軍の銃器 Small Arms of Imperial Japanese Army & Navy』ホビージャパン
松本泉 (2019)『日本大空襲 米軍戦略爆撃の全貌』さくら舎
村山士郎 (2021)『子どもたちが綴った戦争体験 シリーズ戦争』第 3・4 巻 新日本出版社
モリナガ・ヨウ (2017)『迷宮歴史倶楽部 戦時下日本の事物画報』学研プラス
安島太佳由ほか (2015)『平和を考える戦争遺産図鑑』岩崎書店
吉田裕 (2012)『ビジュアルブック語り伝えるアジア・太平洋戦争』第 3・4 巻 新日本出版社
吉成文成解説 (2015)『少女たちの学級日誌 瀬田国民学校五年生組 1944-1945』偕成社
若林宣 (2023)『B-29 の昭和史—爆撃機と空襲をめぐる日本の近現代』筑摩書房

凡例

- ・本誌に掲載した写真や文章の中には、人権擁護などの観点から現在使用されていない表現も見られますが、当時の実態を示すものとしてそのまま使用しています。
- ・字体は原則として常用漢字の新字体を使用していますが、固有名称や引用文中では旧字体等を残した場合があります。
- ・本誌に掲載した写真及び図版については、所蔵者・提供者を付記しています。所蔵者名のないものは北区飛鳥山博物館の所蔵資料です。
- ・本誌に掲載している記事・写真・図版等の無断転載を禁じます。

編集後記

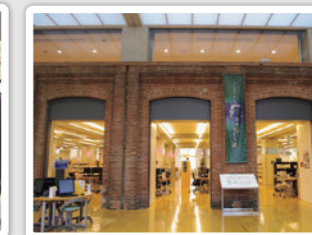
戦後 80 年が過ぎ、戦争を経験した世代の高齢化が進む中で、これまで北区に寄せられた貴重な資料や体験談を子どもたちに伝えたいという思いで本誌を編集しました。ご協力いただきました皆様にご心より感謝申し上げます。
総務部総務課

行ってみよう！北区について学べる施設

北区飛鳥山博物館

北区の歴史・自然・文化を学ぶことができる博物館です。常設展示室では、北区の成り立ちから、古代人のくらし、江戸時代の名所の発展、さらには荒川の自然の様子まで、さまざまな展示を見ることができます。特別展示室では季節ごとに企画展を行っているほか、3階の飛鳥山アートギャラリーでは北区ゆかりの美術品や伝統工芸作品を展示しています。また、図録や各種オリジナルグッズを取り揃えたミュージアムショップ、カフェも併設しています。

- ◆住所：〒114-0002 東京都北区王子 1-1-3
- ◆電話：03-3916-1133 (休館日を除く)
- ◆開館時間：午前 10 時から午後 5 時 (常設展示室観覧券の発行は午後 4 時 30 分まで)
- ◆休館日：毎週月曜日、国民の祝日(休日の場合は開館、直後の平日に振替休館)、年末年始(12月28日～1月4日)、臨時休館日
- ◆観覧料：常設展のみ有料



読んでみよう！戦後 60 年誌・70 年誌

北区では 10 年ごとに戦争の記憶を語りつぐための周年誌を発行し、戦争が人、家族、街をどのような過程で変えていったのか、その様子、体験を様々な面から紹介しています。過去に発行した周年誌は北区のホームページでみることができます。

- ◆戦後 60 年誌
「戦後 60 年 写真で語り継ぐ平和の願い」(左)
平成 18 年 3 月 15 日 初版発行
- ◆戦後 70 年誌
「記憶が紡ぐ平和への願い」(右)
平成 28 年 3 月 15 日 初版発行

